

## 佳作

### 変動する未来にそなえて

山形県村山市立楯岡中学校

2年 天野 悠都

中学校2年生としての学校生活も、3分の1ほどが過ぎようとしている。将来何になりたいのかを考えなければならない時期でもある。しかし、将来は目に見えず、全く予想ができないものだ。例えるなら、新型コロナウイルスの大流行。これによって、生活は大きく変わってしまったし、少し落ち着いてきた今でも、以前に比べてマスクをつけている人が多いのは明らかだ。また、ロシアとウクライナの戦争では、たくさんの犠牲者を出している他、世界経済が動揺し物価高も進んだ。このような時代に生き、これからを担う私たちは、「適応力」を身につけていかなければならないのだと、常々思う。

今年の夏休みは、特に忙しい。それは、ピアノの練習に時間をかけなければならないからだ。私は、小学生の頃からピアニストになりたいという夢を抱いてきた。小さい頃、地区の大会は通るのが当たり前だと思っていたし、ピアニストになんかすぐになれると思っていた。そして高学年になると、自分の夢について考える授業が増えていった。私は、迷わずピアニストのことを調べていた。最初は楽しい世界を想像していたが、調べていくうちに、現実はそう甘くないことがわかってきた。自分よりも上手に演奏できる人はいっぱいいるし、なによりピアニストは給料が安定しない。世界レベルの大会で成績を残せば仕事も次第に増えていくが、そこまでの道のりはすごく過酷なものだ。でも、ここまで頑張ってきたのだから、もう後戻りはしたくない。こうやってだんだんと将来のことについて考えるようになり、将来ってものすごく遠くにあるものだと思っていたけれど、実はもう目の前にあるものだとさえ思えてきた。

私は、中学生から剣道を始めた。剣道は、試合の勝ち負けよりも、相手を思いやる気持ちを養い、心身を錬磨する武道である。私は始めたばかりの頃、素振りは肩から大きく振り下ろすことや、技を出す時には腰から動くイメージを持つと強い打ちになることを教わった。このことを頭に入れ、本やYouTubeを活用してどうすればうまくなるかを考えた。さらに、ピアノを弾く時にも、手だけより腰から、肩から音を出すことで前よりも力強い音になり、倍音（その音とその音の整数倍の音）を鳴らすことができるようになっていった。そうして私は3月、あるコンクールに挑戦した。そのコンクールでは去年、一昨年と全国大会に出場していたが、今年は2次予選で落選してしまった。そんな時、ニュースでパリ五輪出場選手について、多く取り上げられていた。挫折しそう

になった人、大怪我をした人、新競技に挑戦している人などがいた。常に前向きに頑張っている選手たちを見て、また新しいコンクールに挑戦したいという気持ちが芽生えてきた。それは、「ピティナ・ピアノコンペティション」。日本最大級のピアノコンクールだ。いきなり違うコンクールの曲を練習するのは気持ちの切り替えが必要だったが、一度決めたことは最後までやり抜きたかった。剣道で培った強い精神力、そして今までの努力を武器に、県・東北大会を突破し、全国大会出場を果たした。今回は、今までで一番とっていいほど準備がしっかりできている。この機会を大事にし、今までやってきたことをぶつけないと思っている。

このような経験を積むことによって「適応力」が身につく、自分の行動を調整する力が高まってくる。それは、オリンピック選手のように新しい競技、いったことのない場所でも力を十分に発揮できたり、困難な状況になっても柔軟に対処できたりすることにつながるだろう。きっとこれからの世の中も、新たな社会問題が起こるはずだ。どんな職業に就いても、どんな状況に置かれたとしても、引き下がってしまうのではなく、鍛えてきた「適応力」で乗り切っていきたい。何が必要で、何をすべきなのかを考え、臨機応変に対応することが大切だと思う。今も、何が起こるか分からないし、対応を誤ってしまうこともあるくらいなのだから、大人になっても大変だと感じる日がくるかもしれない。そんな時は、今までの自分に自信を持って、常に前へ進んでいく。このことが、未来へつながる一歩に変わっていくのだ。